

大拙館講座

仏教と「無」

— 大拙という方を思いながら



〈講師・丸井先生のコメント〉

「無常」「無我」など、仏教の重要な考え方を表す言葉は「無」で始まるものが多いです。また禅の究極の境地は「無!」の一言に尽きるとも言われます。そのほか「空」や「涅槃」も否定表現の一種です。否定表現が多いので、仏教は暗い、人生に対して消極的だ、というイメージを持つ方も多いかもしれません。でもそうではないと思います。自分へのこだわりを離れ、我を忘れることで、かえって自分が生かされることもあるはずです。「先生は死んで生きておられました」とは、大拙が入寂するまでの15年間師事した岡村美穂子さんの言葉です。生と死は私たちが直面する最も深刻な「矛盾・対立し合う関係」であるはずですが、大拙は生死という矛盾を突き抜けた「静かさ」に包まれていたと言うべきでしょうか。大拙という方を思いながら、仏教の「無」に込められた、矛盾・対立を乗り越える豊かな知恵を読みとっていきたいと思います。

講 題	仏教と「無」 — 大拙という方を思いながら		
講 師	丸 井 浩 氏（武蔵野大学特任教授 / 東京大学名誉教授）		
日 時	平成31年 1 月 27 日(日) 14:00-16:00		
会 場	金沢歌劇座 第3・4会議室 金沢市下本多町六番丁27番地		
受講料	500円	※受講時に現金でお支払いください。	
定 員	50名	※12月18日(火)より電話にて申し込み受付開始。	



鈴木大拙館
D.T. SUZUKI MUSEUM